

平成16年10月15日

中城湾港（泡瀬地区）公有水面埋立事業における海上工事の実施について

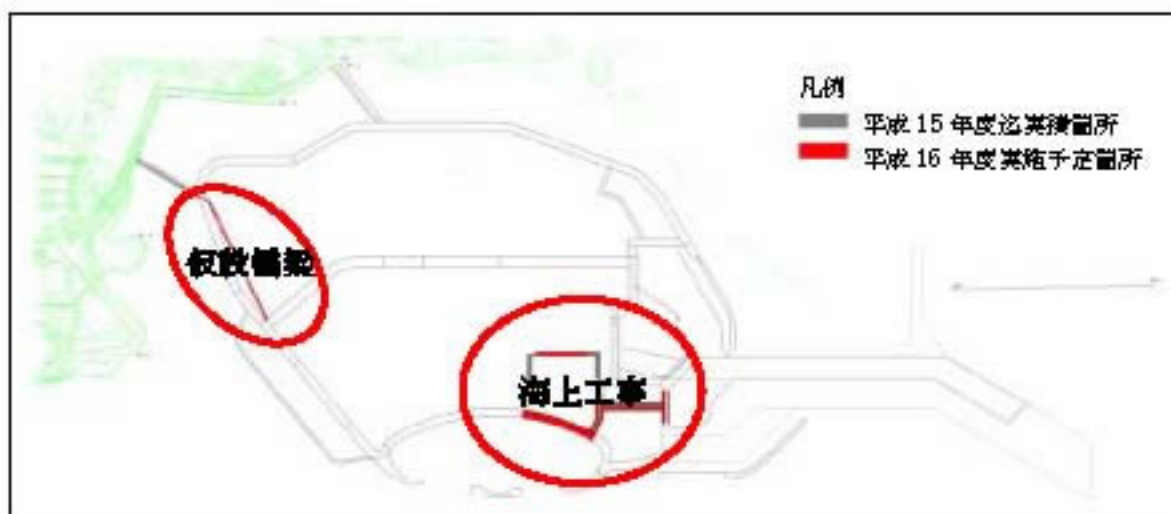
中城湾港（泡瀬地区）公有水面埋立事業については、現在、仮設橋梁の延伸に係る工事を実施しておりますが、海上工事（護岸等）を台風23号通過後、現時点では10月19日（火）より実施予定となりましたのでお知らせします。

【海上工事を実施します】

海上工事については、平成14年度に着工したところですが、今年度については、4月～7月のトカゲハゼ生活圏への配慮のための中断期間が終了し、その後、台風時期の終了を待って、工事を実施することとしておりました。

この度、台風23号の通過により、概ね台風時期が終了すると判断されることから、海上工事を実施することと致しました。具体的な工事は、汚濁防止膜の展張、石材投入、鋼矢板打設となります。工事区域は下図のとおり、詳細については別添-1のとおりです。なお、工事は、現時点では19日からの予定ですが、台風の状態により変更する場合には、改めてご連絡致します。

工事の実施に当たっては、最大限慎重を期すこととしております。具体的には、昨年度からの仮設橋梁工事において、日々のモニタリング結果を工事実施体制や監視体制にフィードバックさせる体制を構築しており、環境影響について十分監視しながら実施します（別添-1参照）。



また、移植対象となる海草に関する調査及びこれまでに発見の報告があった貝類についての事業者見解も併せてお知らせいたします。

【移植対象となる海草はありませんでした】

去る10月5日の第二回環境保全・創造検討委員会において、今年度の工事予定区域内には移植対象となる大型海草の濃密域（被度50%超）がなかったことを報告致しました。

また、泡瀬干潟を守る連絡会からの申し入れに応じ、先日合同調査を実施したところです。その結果、事業者としては改めて移植対象となる海草がないことを確認いたしました。なお、委員会における報告資料及び合同調査の結果については、別添-2のとおりです。

【対応が必要な貴重種は確認されておりません】

平成16年8月23日及び平成16年9月24日にそれぞれ、泡瀬干潟生物多様性研究会より、泡瀬地区における貝類発見の報告がありました。

事業者において確認したところ、平成16年8月23日に発見の報告があった貝類5種につきましては、いずれも事業者において未確認ですが、新種ではなく、すでに文献によって確認が報告されていた種でした。また、天然記念物としての指定やレッドデータブックへの記載等において、特段、貴重種として位置づけられておりませんでした（詳細は、別添-3参照）。特に、生貝として確認された3種については、既存の図鑑で分布域が掲載されているものであり、その他の種も含め、これまで知られていた分布域を大きく広げるものではないと考えております。以上のことから、現段階では、仮にこれらの種が事業者において確認されたとしても、特段の対応が必要はないものと判断しました。

また、9月24日に報告のあったスイショウガイについては、既に事業者において確認しており（平成15年12月19日県環境部局に報告済み）、特段の対応は予定しておりません。

【今後の予定】

事業者等における今後の委員会等の予定は、現在のところ、以下のとおりとしています。

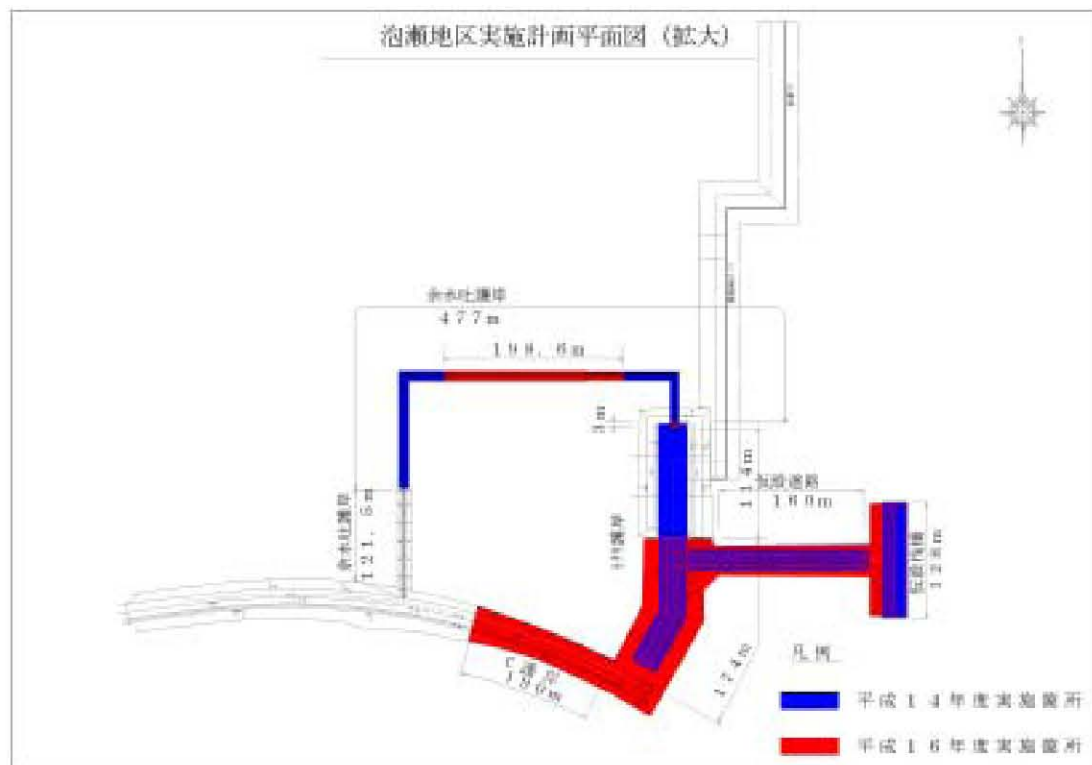
10月	中城湾港港湾環境保全計画検討委員会（仮称）立ち上げ予定
11月	海藻草類専門部会開催予定
12月	合同勉強会開催予定

平成 16 年 10 月 15 日

那覇港湾・空港整備事務所
中城湾港出張所 小早川・名嘉
TEL:098-938-9640 FAX: 098-982-1314

海上工事について

1. 施工期間：平成 16 年 10 月 19 日（予定）～平成 17 年 3 月 25 日
ただし、台風 23 号の状況によっては、工事実施日が変更となる可能性があります。
変更する場合は、前日夕方、当出張所より報道各社に連絡致します。
2. 場所：沖縄市泡瀬地先



3. 施工内容

仮設桟橋：128m（暫定）

基礎捨石 12.377 m^3

被覆石 1.521 m^3

仮設道路：160m（完成）

基礎捨石 3.877 m^3

被覆石 1.606 m^3

ト内護岸：174m（暫定）

基礎捨石 15.022 m^3

被覆石 2.853 m^3

C護岸：190m（暫定）

基礎捨石 16.804 m^3

被覆石 1.333 m^3

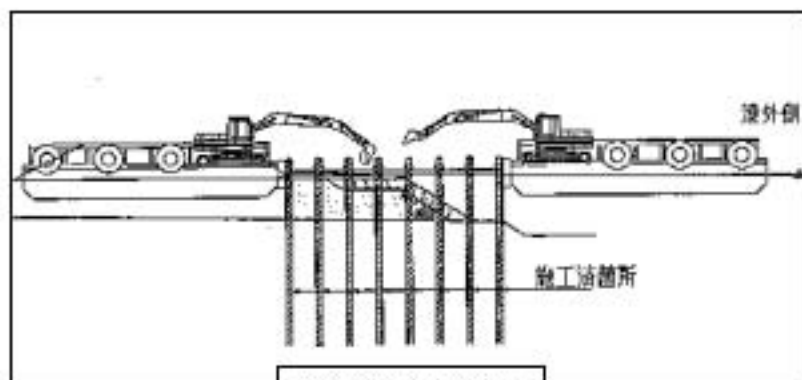
余水吐護岸：199m（暫定）

矢板打設 936枚

基礎捨石 1.578 m^3

4. 施工方法

仮設桟橋：既設H型鋼杭の間に台船より基礎捨石を投入、基礎捨石マウンドを形成する。



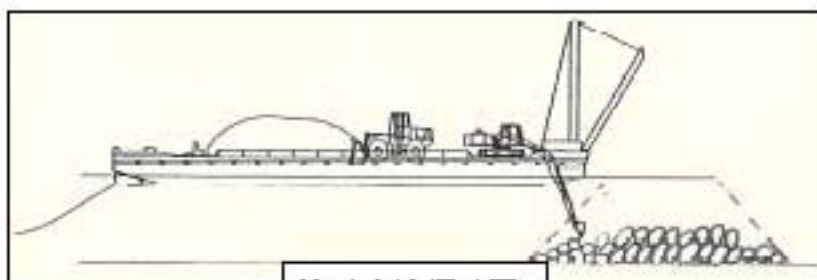
施工方法概略図



現状写真

仮設道路及び護岸（ト内護岸、C護岸）

：台船より基礎捨石を投入、基礎捨石のマウンドを形成する。

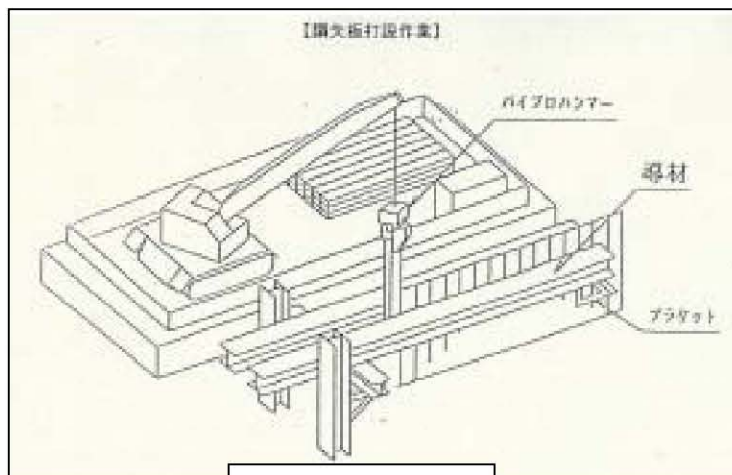


施工方法概略図



施工状況写

護岸（余水吐）：台船上のクレーンにより、鋼矢板を打設後、矢板を取り巻くように基礎捨石マウンドを形成する。



施工方法概略図



施工状況写

5. 10月19日（予定）の工事スケジュール

8:30 物揚場より航路浮標灯設置船団出港

物揚場より工事用航路へ移動

10:00

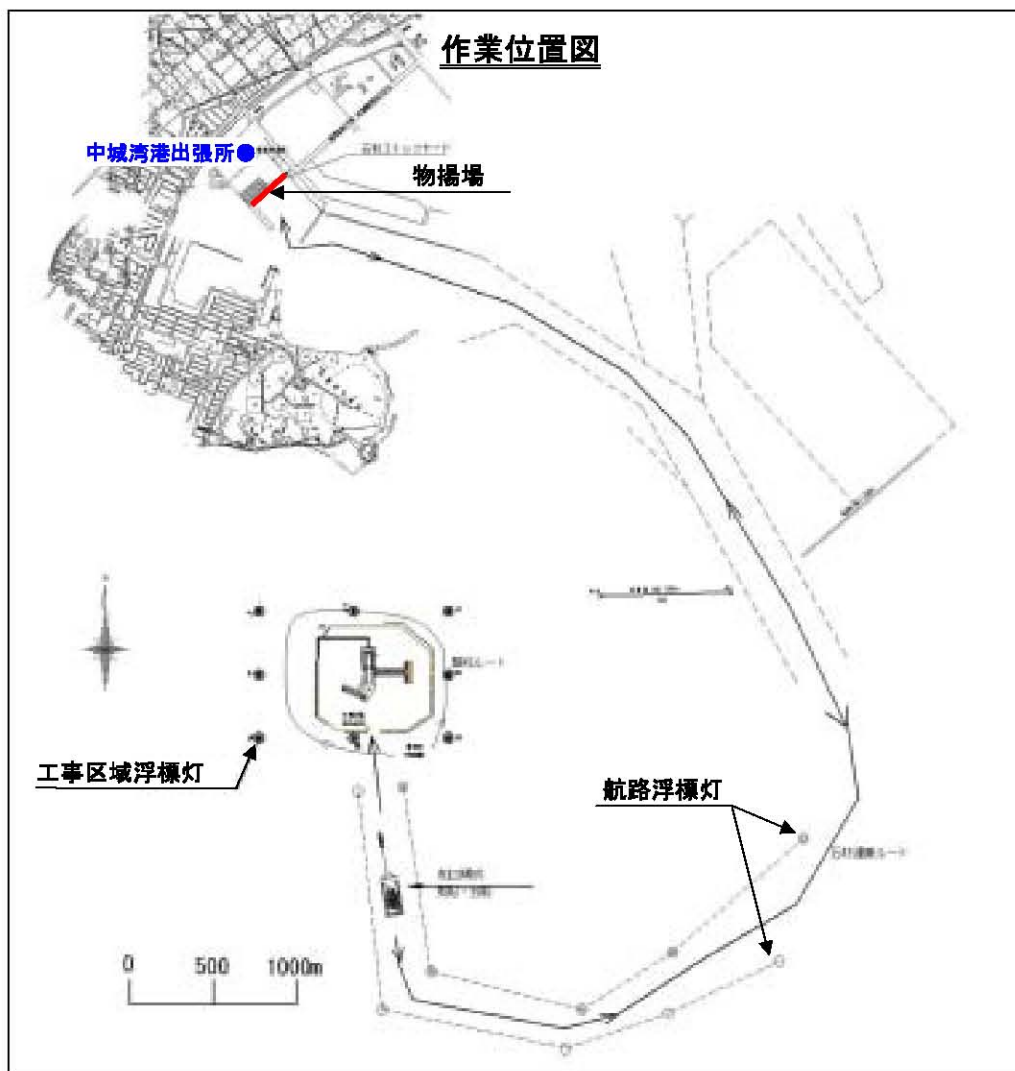
～12:00 工事用航路到着、航路浮標灯4基設置予定

12:00

～12:30 作業船移動

12:30

～16:00 工事用航路到着、航路浮標灯6基設置予定
(20日、工事区域浮標灯8基設置予定)



6. 工事概要説明及び取材船について

10月19日（予定）、9:00より中城湾港出張所前、工事作業ヤードゲート内の入り口付近において、工事概要説明を行います。

工事概要説明後、物揚場より取材船に乗船頂き海上工事を取材して頂きます。

なお、取材船への乗船は、船の定員の関係上、各社2名までとさせていただきます。

詳細スケジュール、工事概要説明場所及び乗船場所は以下のとおりです。

詳細スケジュール

9:00

～9:15 工事概要説明

物揚場へ移動

9:20

～10:00 取材船に乗船、海上工事現場へ移動

10:00

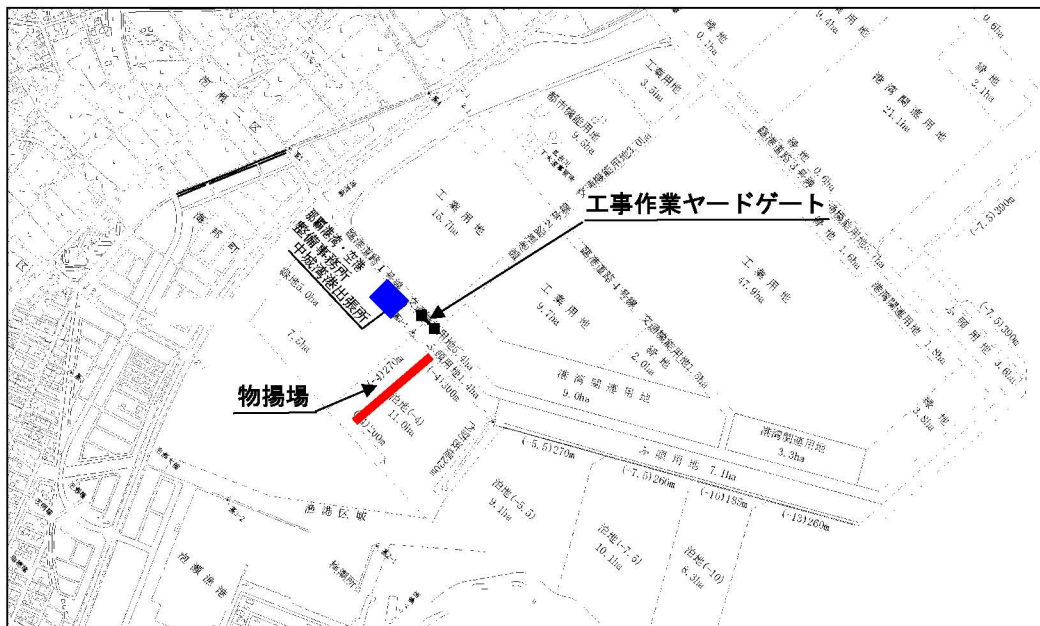
～10:30 海上工事取材

物揚場へ移動

11:10

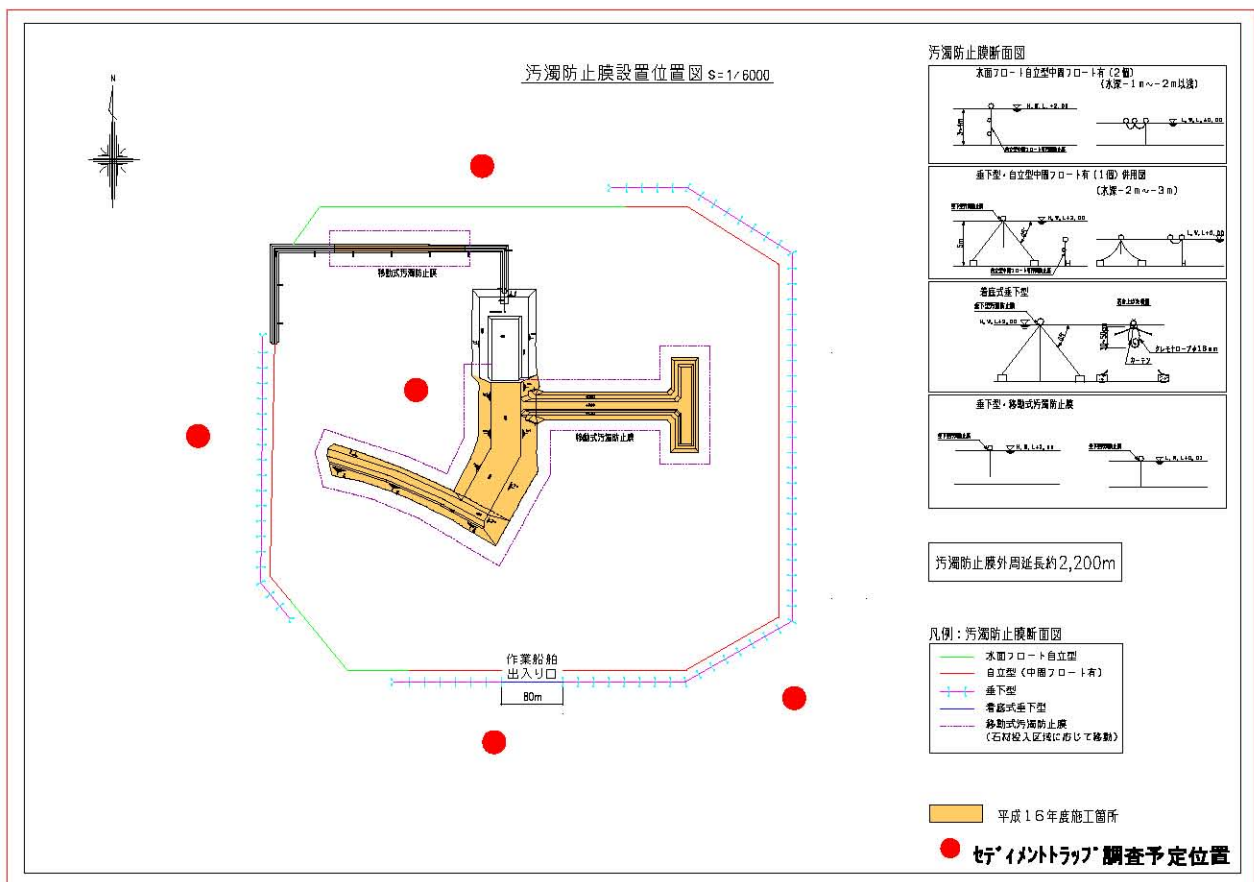
物揚場到着、下船、解散

工事概要説明場所及び乗船場所



7. 環境保全措置

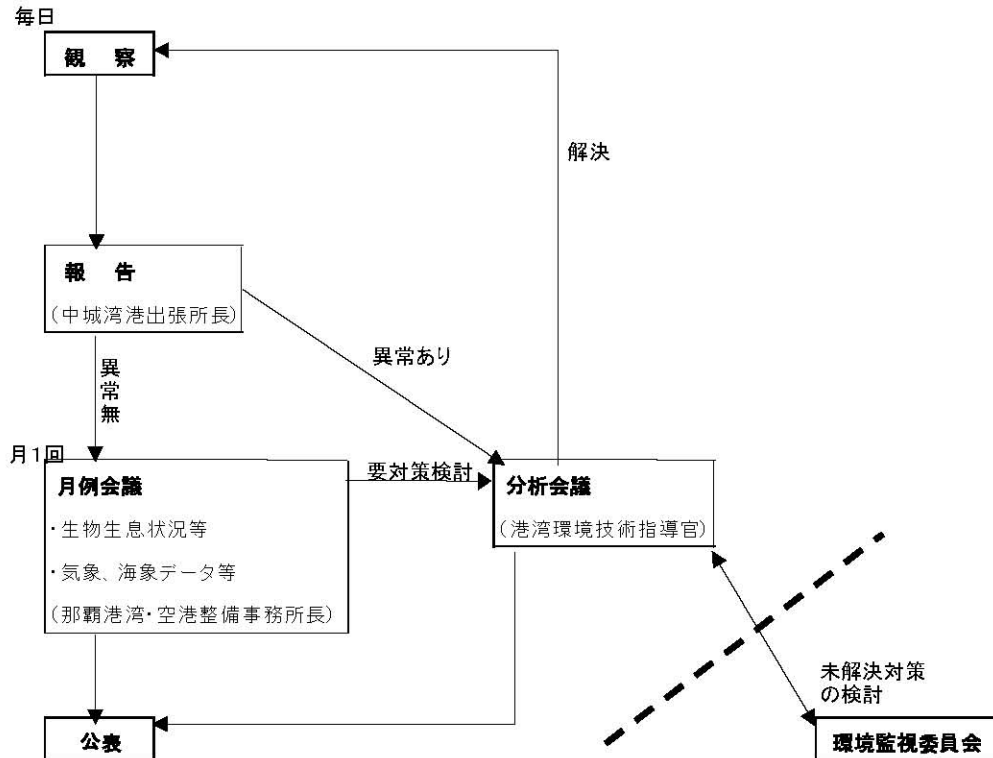
- ① 工事実施においては、汚濁防止膜を二重に展張して、工事区域外への濁りの拡散を防止する。
- ② 作業機械からの油脂類等の海上への流出がないよう常に巡視点検を行い、海上汚濁防止に努める。
- ③ 集中的な汚濁の発生を抑えるため、工事が一時期に集中しないよう工事行程を調整する。
- ④ 環境監視委員会での議論に基づき、汚濁防止膜の効果を確認するためセディメントトラップを設置する。



8. 工事期間中の環境監視について

工事期間中は、モニタリングを行い、工事による影響が確認された場合には、工事中断等の措置を講じる。

仮設橋梁工事フィードバック実施フロー



■昨年度のフィードバック事例

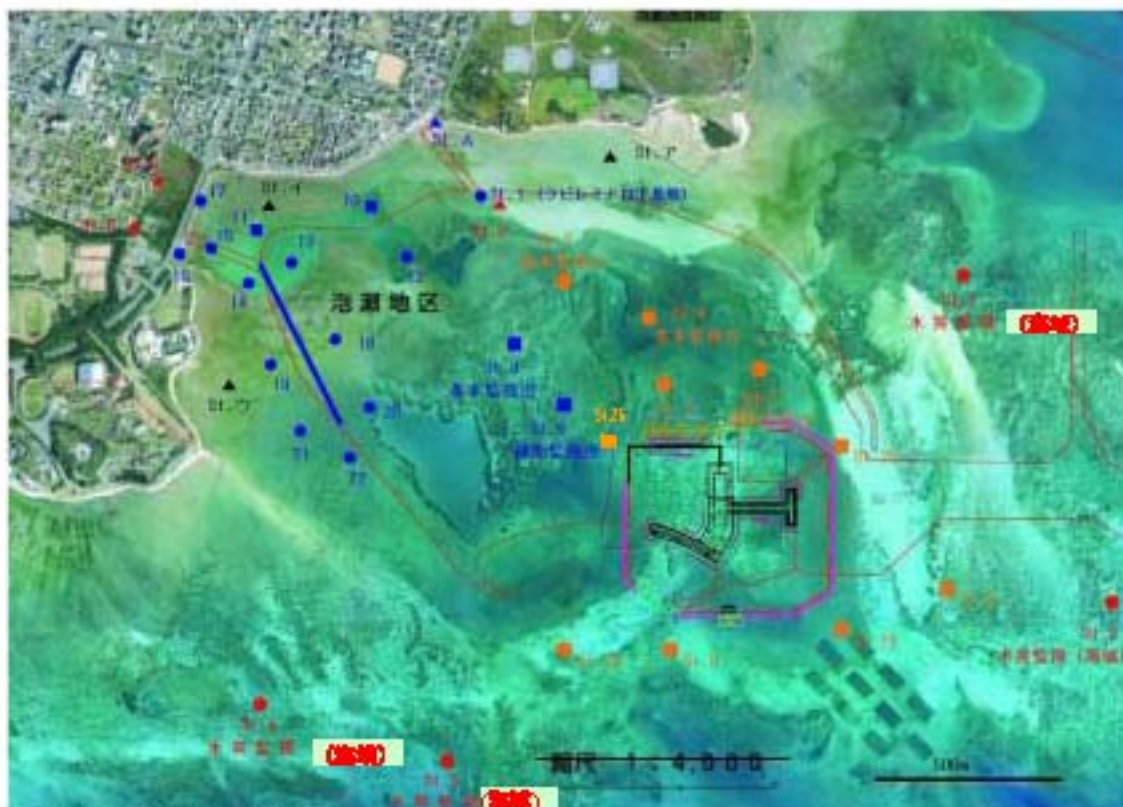
現象：昨年度、降雨時に高い濁度が観測された。

フィードバック 1

- ・ 外レトリロの監視地点において濁りが基準値を下回るまで、杭打ち作業を一時中断した。

フィードバック 2

- ・ 陸域からの雨水流入部に濁り監視地点を2地点追加した。



工事期間中の監視地点

- (St.1,10~22)、■(St.3,6) ▲(St.A) : 仮設橋梁工事の濁り監視地点
- ▲ : 水路部予定海域の水質調査地点(St.7~9)
- ▲ : 濁り・流入負荷量調査地点(St.A~D)
- : クビレミドロ生育域での基本監視点及び補助監視点等(St.1~11、23~26)
- : 水質監視 (海域) (St.1~4)

・埋立計画地周辺（海域）における定期の濁り監視は、月1回、バンドーン採水器を用いて表層水（海面下0.5m）を採取、冷蔵所保存し、SS、CODを分析する。

・埋立計画地周辺における工事期間中の濁り監視は、毎日2回（10時-15時）、現場観測及び濁度計による濁度の観測を行う。

濁度は、上層（海面下0.5m）、中層（上層、下層の中間水深）、下層（海底上0.2m）にて観測し、SS（mg/l）に換算して記録する。

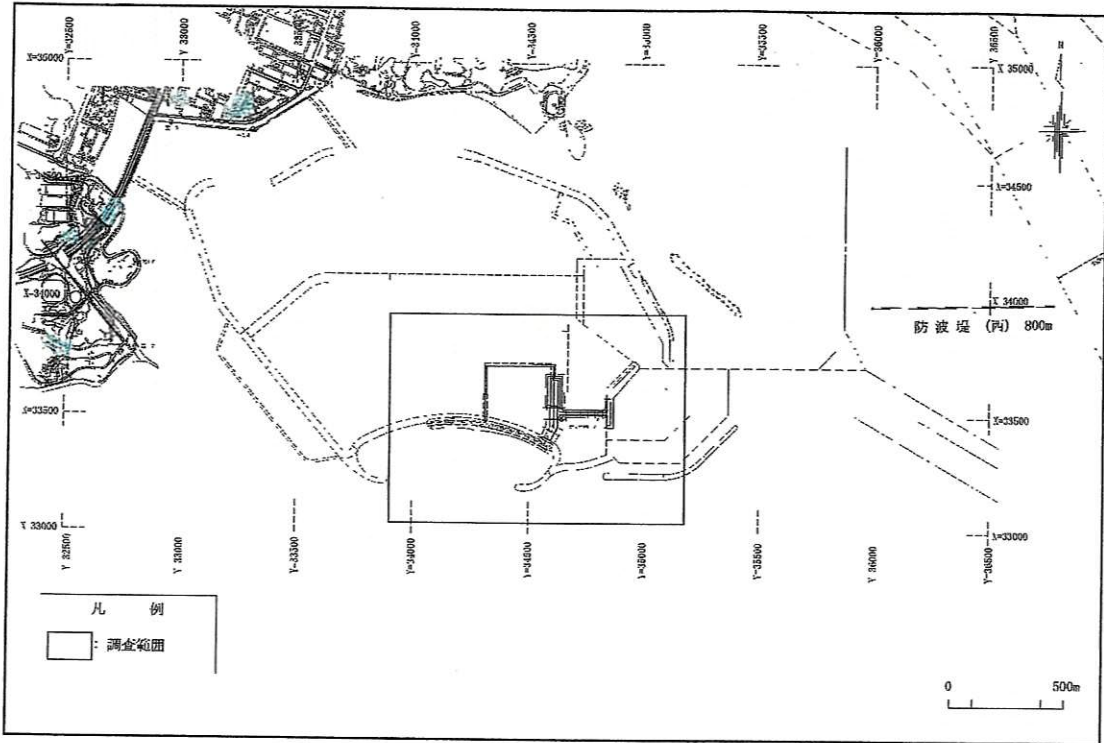


図1 調査位置 (調査期間：平成16年7月29日～31日)

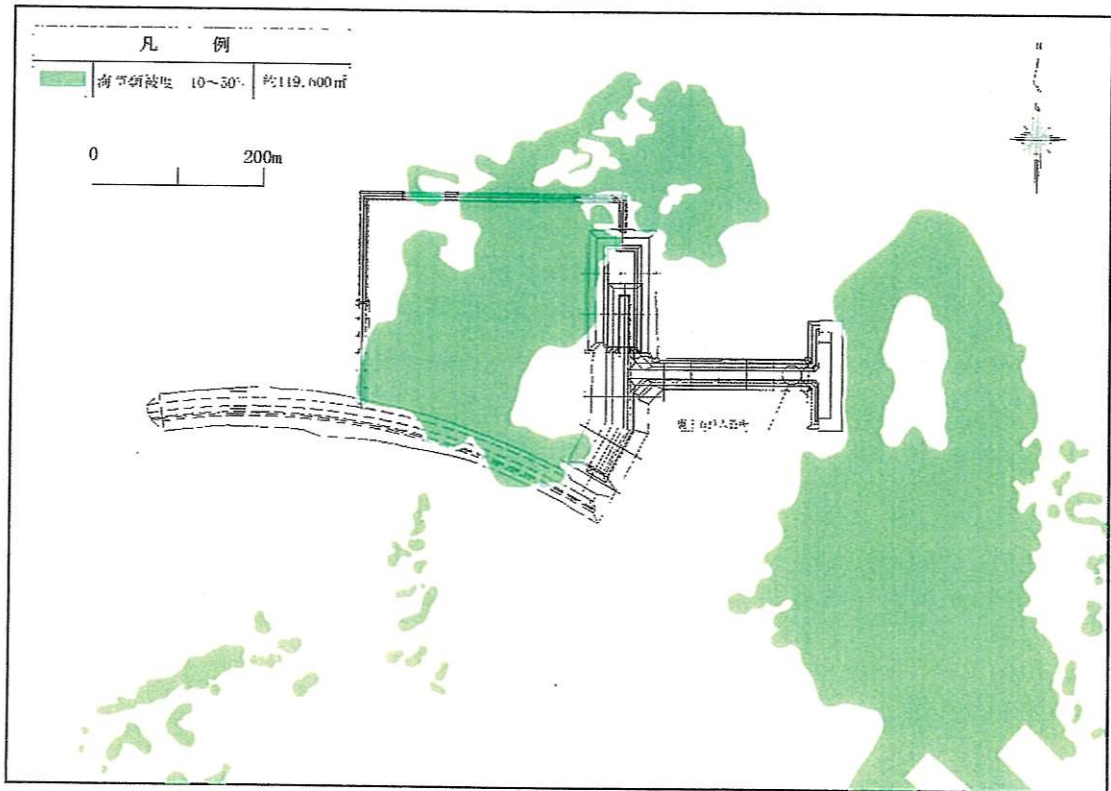
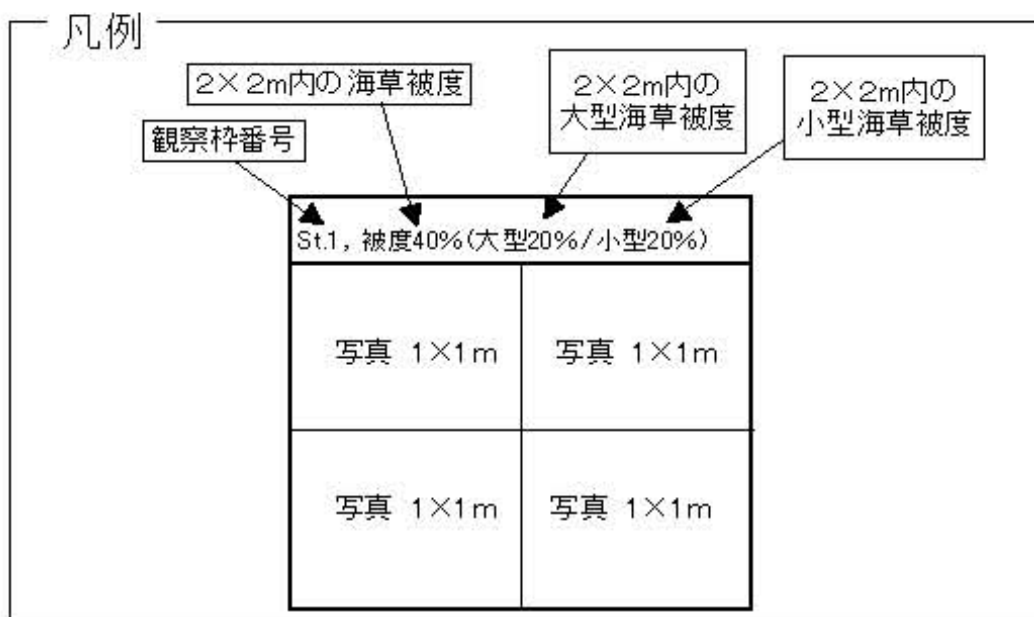


図2 施工予定区域における藻場の状況 (平成16年7月29～31日)

合同調査結果(被度情報) 10×10m

St1, 被度40%(大型20%/小型20%)	St2, 被度35%(大型15%/小型20%)	St3, 被度45%(大型20%/小型25%)	St4, 被度30%(大型15%/小型15%)	St5, 被度40%(大型25%/小型15%)
St6, 被度40%(大型20%/小型20%)	St7, 被度50%(大型30%/小型20%)	St8, 被度50%(大型35%/小型15%)	St9, 被度45%(大型40%/小型5%)	St10, 被度25%(大型20%/小型5%)
St11, 被度45%(大型30%/小型15%)	St12, 被度55%(大型30%/小型25%)	St13, 被度50%(大型25%/小型25%)	St14, 被度45%(大型40%/小型5%)	St15, 被度40%(大型30%/小型0%)
St16, 被度50%(大型30%/小型20%)	St17, 被度45%(大型25%/小型20%)	St18, 被度45%(大型30%/小型15%)	St19, 被度40%(大型30%/小型10%)	St20, 被度40%(大型30%/小型0%)
St21, 被度45%(大型30%/小型15%)	St22, 被度50%(大型35%/小型15%)	St23, 被度45%(大型30%/小型15%)	St24, 被度50%(大型35%/小型15%)	St25, 被度40%(大型25%/小型15%)



これまでに発見の報告があった貝類について

● 平成16年8月23日に発見の報告があった貝類について

	形状	生貝の 確認*	新種	レッドデー タブック等 の位置づけ	分布域
オキナワハナムシロ <i>Zeuxis scalaris</i>	巻貝 2~3cm	○	×	なし	沖縄※1
カゲロウヨフバイ <i>Zeuxis sp.</i>	巻貝 2.5~3cm	○	×	なし	奄美諸島、沖縄諸島 の内湾、河口沖水路 の泥底※1
コウシヒメムシロ※2 <i>Nassarius(Hima) taggartorum</i>	巻貝 0.9cm	×	×	なし	沖縄※3
ヤマホトトギス <i>Musculista japonica</i>	二枚貝 2.3cm	○	×	なし	房総半島・日本海中 部以南、東南アジア の推進 50cm までの 泥底※1
コバコガイ <i>Montrouzieria clathrata</i>	二枚貝 1cm	×	×	なし	沖縄～ニューカレド ニア※4

* 泡瀬干潟生物多様性研究会による確認

※1 日本近海産貝類図鑑（奥谷、2000）

※2 ナミヒメムシロ（*Nassarius(Hima) pauperus* あるいは *Reticunassa pauperus* / 北海道南部以南の西太平洋、潮間帯砂底に分布（奥谷、2000））と同種とされることもある（Cernohorsky, 1984; Higo *et al.*, 1999）

※3 沖縄郡島産貝類目録（黒田、1960）

※4 日本産軟体動物分類学 二枚貝綱/掘足綱（波部、1977）

● 平成16年9月24日に発見の報告があったスイショウガイについて

スイショウガイについては、過去にも発見の報告がなされており、事業者においても確認をしている種である。従って、今回新たに確認された種ではない。なお、本種はインド太平洋に広く分布している水産対象種である。

	形状	生貝の 確認	新種	レッドデー タブック等 の位置づけ	分布域
スイショウガイ <i>Strombus turturella</i>	巻貝 6.5cm	○	×	なし	房総半島以南、熱帯 太平洋※1

※1 日本近海産貝類図鑑（奥谷、2000）